

平成25年(2013年)6月1日発行

キャンパスリニューアル

新学科棟竣工・学生相談室を統合

生活環境デザイン学科実験棟W2棟竣工... 5月8日(水)、大川理事長、波多野学長ら大川執行部と工事関係者により、新築のW2棟内にて、竣工式を執り行った。本研究棟(鉄骨造2階建、延床面積は、約1300平方メートル)は、設計



W2棟の2階から1階エントランス付近を望む

及び施工管理を本学建築学科の吉村助教が中心となり進めてきたもので、外観のメタリックな仕上げや自然光を最大限利用した大きな窓による省エネ化、また、正面入り口には緩やかなスロープを設けるなど、利用者への優しい気配りが感じられる建物となっている。一方、入り口には広々とした吹



学生相談室のカウンセリングルーム(2室のうちの1室)

り口正面にある大扉は、回転することで利用者の動線を切替えられる工夫をしている。2階は、間切りの少ないオープンスペースで、福祉関連の学生実験・実習施設となっている。省エネを考慮して、棟内照明はLEDで統一し、空調はGHP。また、大きな窓の上下に重量換気可能な開口窓を設置している。

学生相談室を統合 本館1階と2階に分散していた「学生相談室」の利便性の向上を図るため、1階の部屋の間仕切りを撤去し拡張工事を行った。入り口部分を透明ガラスに変更、広いスペースの壁面は優しい色合いにし、窓からの採光は調整可能とした。さらに、個別の相談室を間接照明にするなど利用者に対し安らぎの空間を演出した。新年度4月1日(月)にあわせ利用を開始した。

体育館耐震補強工事 6月1日(土)現在、耐震壁のブレースや天井照明等の落下防止工事が完了し、エントランス内装の仕上げを行っているところである。同時にリノベーション部分のトレーニング棟・健康管理センターの増床(約400平方メートル)工事や一部外溝改修などが行われており、7月末の完工を目指している。

環境マネジメント活動の推進 内部環境監査を実施・エコロジープレス発行

本学の環境推進活動は、平成13年6月27日(木)のISO14001認証取得から12年が経過した。これまでの様々な成果を踏まえ、次の4項目に重点をおき、さらに活動に取り組みしていきたい。①環境教育・研究のさらなる充実②ISO環境推進委員会と学生環境推進委員会をコアとする学生との連携③化学物質の厳密な管理を含めた環境・安全管理運営体制の構築④省エネ活動の推進。特に、ISO13年度は、環境教育検討部会により、エコ活動をリードする「エ

コリーダー(仮称)的な人材を育てる認定制度を現在検討している。次に、「環境報告書」のダイジェスト版としてISO11年度から発行している、本学環境関連情報の発信媒体「エコロジープレス13号」について紹介する。今回の内容は、キャンパスをまるごと環境博物館としたエコ・ミュージアムを加えたこと。また、全国の大学が参加する「第4回エコ大学ランキング」での全国総合第1位受賞報告。さらに、防火・防災向上を目的とした施設



内部環境監査には学生環境推進委員も参加

改善(マンホールトイレ・斉放送・防災備蓄倉庫設置など)の取組み状況や学生の環境活動報告等を詳細に掲載している。1号から閲覧が可能となっているので、本学ウェブサイトでご覧いただきたい。



内部環境監査の実施 第5次となるISO11年度(H24/10~H25/9)がスタートして8ヶ月を経過、その期間を対象とした内部環境監査が、4月から5月上旬にかけて全部門(16か所)で実施され、環境マネジメントシステム(PDCA)の有効性の確認が行われた。

大川陽康奨学金、学業奨励奨学金 136名を認定

4月10日(水)、情報工学科棟5階会議室において、大川陽康奨学金および学業奨励奨学金受給対象者の認定式が執り行われた。

認定式には、波多野学長、竹内学生支援部長、吉田学生支援部長補佐、山田学生支援部長補佐、吉見学生支援課長、及び本奨学金受給対象学生134名が出席した。

本年度は大川陽康奨学金25名、学業奨励奨学金のエクセレント・スチューデント(ES)36名、リマーカー・スチューデント(RS)75名が奨学金受給対象となった。

認定式は18時30分より始まり、冒頭、波多野学



学業奨励奨学金受給者(建築デザイン学群)と波多野学長

大川陽康理事長 米寿を祝う会

5月18日(土)、「大川陽康先生の米寿を祝う会」が、ホテルメトロポリタン池袋において盛大に開催され、学園関係者約180人が参加した。はじめに、主催者を代表し柳澤副理事長、東工学園同窓会の徳川会長より祝辞をいただいた。続いて、波多野学長による乾杯の発声により祝宴の場へと移り、大川理事長を囲んでの終始なごやかな歓談となった。最後に大川理事長よりご挨拶をいただき、駒場中学・高校の吉田校長による中締めで盛況裡に終了した。



大川陽康理事長と美和子夫人

大川陽康理事長と美和子夫人... 7676)まで。

オープンキャンパス 無料バスを運行します! 詳細はWEBサイトで NIT夏のオープンキャンパス 7/14(日) 8/3(土)・4(日) 8/24(土) 9/8(日) オープンキャンパス・進学相談会 10/26(土) 11/23(土) 各開催日とも11時開始(ランチ付) お問い合わせ・お申込み先: 教務部入試室 ☎0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp URL: www.nit.ac.jp 携帯URL: www.nit.ac.jp/k

平成26年度入試情報 本学を志望する受験生はここ数年増加を続け、今春も、ものづくりの志をもつ多くの新入生を迎えることができた。平成26年度入試もいよいよスタート。入試の変更点や概要、奨学金制度は以下のとおり(詳細は受験ガイド、各募集要項を参照)。 ◆募集人員を拡大 一般入試は約50名、セブター利用入試は約90名、募集人員を拡大。 ◆特別奨学生入試 成績優秀で向学心あふれる方を幅広く受け入れるべく、年2回(8月、1月)、計40名を募集。特典として、1年次の学費の半額を免除。筆記試験を重視する第2期募集は、入学手続締切日を遅めに設定し、国公立大学等と併願受験を検討する方も応募できる。 ◆入試奨学金の給付 入試奨学金は、1年次の学費の減免として年額20万円を給付。平成25年度は211名の方が認められた。一般入試、セブター利用入試、専門高校入試(S工業科)および(B工業科)の合格者のうち、入試の成績が優秀で、学業の伸びが期待される方に給付。 ◆地方会場を設定 ○一般入試A: 仙台、郡山、水戸、宇都宮、高崎、千葉、柏、東京(一般入試Bでも設定)、新横浜、新潟、金沢、長野、静岡 ○専門高校入試(B工業科)および一般推薦入試(公募制) 仙台、水戸、宇都宮、高崎、東京、新潟、金沢、長野 ◆大学案内の刊行 本学の特色をわかりやすく紹介する「2014大学案内」、女子の受験生向けに本学の特色をコンパクトに紹介する「ブックレット」を刊行ご希望の方は、教務部入試室(0480-333-7676)まで。

台北科技大学学長一行 学内見学、金型企業視察

3月22日(金)、翁頌一学長率いる台北科技大学管理學院院長を代表とする同大学経営学修士コースの教職員9名と院生(台湾の企業経営者や幹部)31名が波多野学長を表敬訪問した。

学長と会談後、一行は3班に分かれて学内の教育・研究施設を熱心に見学した。当日はキャンパス内の桜が8分咲きと見頃で、LCセンター前の「桜の広場」では、一行が満開の桜の撮影を楽しんでいた。施設見学後は、学友会館で昼食をとりながら、本学執行部メンバーと和やかに懇談した。午後には池上金型工業を見学。張曉友機械工学科准教授の通訳の元、質疑応答も活気を帯び、予定時間を大きく超える程であった。質問内容は、日本製金型と中国・韓国・台湾製金型との違いや品質管理、コストといった実務的なものが多く、会社側からは、特にコストに苦慮しているとの説明があった。台湾産業界の意気込みが感じられる1日であった。



翁院長から記念品を受け取る波多野学長

平成25年度 科学研究費助成事業採択課題

平成25年4月1日(月)に平成25年度科学研究費助成事業の交付内定が日本学術振興会から通知され、本学は17件の研究課題が新規採択を受けた。継続課題の20件を含めると、本年度は過去最高の37件が科学研究費の交付を受けることになる。

本学の科学研究費助成事業の採択率は、国公私立大学を含めた例年の全国平均と同水準であり、今後も各教員がそれぞれの研究テーマの充実に向けて邁進し、更なる採択件数の増加を期待したい。

平成25年度交付決定者・内定者一覧

研究種目	所属	職	研究代表者氏名	新規継続	採択年度	研究課題
基礎研究C	機械工学科	教授	梅崎 栄作	新規	25	流動と応力分布の同時計測による紫外線硬化樹脂に生じる残留応力の解明
基礎研究C	機械工学科	教授	竹内 貞雄	新規	25	大気圧プラズマによる細径ダイヤモンドコーテッドエンドミルの刃付け研磨技術の開発
基礎研究C	機械工学科	教授	神 雅彦	新規	25	金属の固相接合法による微細部品精密接合技術の開発と応用に関する研究
基礎研究C	機械工学科	准教授	二ノ宮 進一	新規	25	超音波放電加工による多結晶ダイヤモンド焼結体の高効率微細加工に関する研究
基礎研究C	機械工学科	助教	岡崎 昭仁	新規	25	余剰排気エネルギー回生型エンジンシステムの研究
基礎研究C	ものづくり環境学科	准教授	安原 鋭幸	新規	25	超音波加振を利用した異種材料薄板接合法の開発
基礎研究C	創造システム工学科	教授	渡部 修一	新規	25	DLC膜の表面自由エネルギー制御
基礎研究C	創造システム工学科	教授	吉澤 信幸	新規	25	健足につけたセンサ信号を利用した電動下肢補そ用具による快適歩行
基礎研究C	創造システム工学科	講師	田村 仁	新規	25	カメラを用いた路面摩擦係数の判別手法
基礎研究C	電気電子工学科	准教授	平栗 健史	新規	25	モバイルネットワーク仮想化に関する制御アルゴリズムの研究
基礎研究C	情報工学科	教授	新藤 義昭	新規	25	CG映像と実写映像を融合した映像教材制作技法と対話型理科仮想実験システムの研究
基礎研究C	情報工学科	准教授	武藤 剛	新規	25	他者との身体的な相互作用に基づく歩行機能の獲得支援技術に関する研究
基礎研究C	建築学科	教授	三坂 育正	新規	25	屋外空間の積極的な活用のためのフラクタル日除けによる快適空間創出手法の確立
基礎研究C	共通教育系	准教授	田中 佳子	新規	25	学生の自己評価に基づいた個票による継続的自己教育力育成支援システムの開発と評価
基礎研究C	先端材料技術研究センター	准教授	野口 裕之	新規	25	ダイヤモンド金型を用いた超高压下でのセラミック粉末の常温焼結メカニズムの研究
基礎研究C	工業技術博物館	講師	丹治 明	新規	25	昭和初期に設計・製造された工作機械の3次元モデルによる可視化
基礎研究C	専門職大学院	教授	小田 恭市	新規	25	グローバル・ニッチ・トップ企業の発生・成長メカニズムに関する研究
基礎研究C	機械工学科	教授	長坂 保美	継続	24	3次元CAD教育システムに関する研究
基礎研究C	ものづくり環境学科	准教授	石田 武志	継続	24	分散エネルギー群の自己組織的クラスター形成条件の明確化と有効性の評価
基礎研究C	ものづくり環境学科	准教授	鈴木 宏典	継続	24	オンライン車群管制の実現に向けた車群走行状態フィードバック推定システムの開発
基礎研究C	創造システム工学科	准教授	樋口 勝	継続	24	安定かつ高効率な歩行を実現するパリアル歩行モードを有する4足歩行ロボットの開発
基礎研究C	電気電子工学科	准教授	上野 貴博	継続	24	風力発電機における電力伝達機構の長寿命化の研究
基礎研究C	建築学科	教授	那須 秀行	継続	24	木材繊維方向の組合せにより接合部剛性・強度および靱性を確保し制御する研究
基礎研究C	共通教育系	准教授	大野 修一	継続	24	解析・調和関数空間の構造とそれら関数空間上の作用素の研究
挑戦的萌芽研究	生活環境デザイン学科	教授	瀬戸 真弓	継続	24	高齢者の脳が活性化化する歩道の検討
挑戦的萌芽研究	共通教育系	准教授	佐藤 彬彰	継続	24	トレイジシステム実験による物理教育支援システム
若手研究B	建築学科	助教	菊田 貴恒	継続	24	高強度・高靱性ひずみ硬化型複合材料の開発と評価
基礎研究C	機械工学科	教授	村田 泰彦	継続	23	プラスチック射出成形におけるバリ発生評価金型の開発
基礎研究C	機械工学科	准教授	張 曉友	継続	23	高速・高精度・大ストロークを有する放電加工用5自由度制御型アクチュエータの研究
基礎研究C	ものづくり環境学科	教授	八木田 浩史	継続	23	可処分時間を考慮した産業の生産性および環境効率の評価
基礎研究C	創造システム工学科	准教授	佐野 健一	継続	23	アクチングの振動メカニズムの解明
基礎研究C	電気電子工学科	教授	青柳 稔	継続	23	金属容器中の非接触液体検出手法に関する研究
基礎研究C	情報工学科	教授	山田 秀美	継続	23	進化計算とニューラルネットワークを用いた群ロボットの効率的な制御の研究
基礎研究C	建築学科	教授	成田 健一	継続	23	都市内の斜面緑地における冷気のにじみ出し現象の把握と温暖化対策としての利用可能性
基礎研究C	建築学科	特別研究員	牧野 唯	継続	23	家族形態・居住形態の変容にともなう歴史的居住地の持続性に関する研究
挑戦的萌芽研究	機械工学科	講師	増本 憲泰	継続	23	2次元フラクタルツリー-非線形振動特性に関する研究
挑戦的萌芽研究	共通教育系	准教授	服部 邦彦	継続	23	プラズマ支援燃焼を用いたエアロスパイクによる流体制御

本学キャンパスが所在する宮代町から製作費の出資を受け、建築学科小川研究室所属の学生らが屋外用ベンチを設計・製作した。官学連携事業「ミヤシロまちプロジェクト」の一環として企画された事業で、「桜並木ベンチ[春]」、「桜並木ベンチ[秋]」と名付けられた2つのベンチが3月18日(月)に完成、設置された。



桜並木ベンチ[春]と[秋] 学生が製作 官学連携事業・ミヤシロまちプロジェクトの一環



設置場所は町内屈指の桜の名所である「水と緑のふれあいロード」。東武動物公園駅西口から東武動物公園へ至る途中に位置しており、花見や散歩時の休憩など、町民の憩いの場としての利用が期待される。[春]は桜、[秋]は彼岸花をモチーフとしてデザインされており、[春]は大の字で寝転がることができ、桜を下から仰ぎ見ることができる。

5月26日(日)午後1時30分より、本学学友会館において平成25年度後援会定期総会が開催された。第1号議案「平成24年度事業報告」、第2号議案「平成24年度決算報告」、第3号議案「平成25年度事業計画」、第4号議案「平成25年度予算」、第5号議案「理事・監事の銜衡」は、慎重審議の上、全て承認され、総会は無事終了した。

新執行部は次の通り。
 会長 田中則弘(新潟)
 副会長 千葉 満(岩手)
 福土晃昭(青森)
 沼尻裕之(埼玉)
 相場博行(秋田)
 畑中昭博(福島)
 木野内宣明(栃木)

後援会定期総会開催報告

今年度の事業計画・予算等を承認

総会終了後には、学内見学を実施。学群ごとに分かれ、キャンパス内の主な施設設備を職員が案内した。教職員らも交えた懇親会も行われ、会員同士及び大学側との懇親を深めた。



平成24年度の事業報告などが行われた

名誉教授任命

- 片山茂友教授
- 桑原文夫教授
- 佐藤茂夫教授

人事異動

- 【任命】(4月1日付)
 - 大学院技術経営研究科 長 柳澤章教授(再任)
 - 大学院技術経営研究科 副研究科長 小田恭市教授(新任)
- 大学院工学研究科環境共生システム専攻幹事 八木田浩史教授(新任)
- 大学院工学研究科機械システム工学専攻幹事 長坂保美教授(新任)
- 大学院工学研究科電子情報メディア工学専攻幹事 石川 孝教授(新任)
- 大学院工学研究科建築デザイン専攻幹事 寺尾裕教授(再任)

本学が参画する
彩の国連携力育成プロジェクト
 専用ウェブサイト開設
<http://www.saipe.jp/>

本プロジェクトは、平成24年度大学間連携共同教育推進事業に選定された取組で、県内4大学による学生の専門分野の垣根を超えた多職種連携育成を実施し、総合力で地域の暮らしを支える人材を養成する。サイトではプロジェクトの実績や今後の予定等の情報提供のほか、Twitterによるコメント投稿も可能。

宮代町だより 183号

梅雨の時期の楽しみ方

外に出るのも億劫になる梅雨の時期に、活躍する場所のひとつが図書館。日工大には見逃した目も中身も立派な図書・情報複合施設「LCセンター」があり、すがすがしいながらも、町にも小さいながらも楽しみ方があります。

- 黒津高行教授(新任)
- 技術研究系総括センター長兼 三宅正二郎教授(再任)
- 総合研究センター長兼 三宅正二郎教授(再任)
- 先端材料技術研究センター長兼 三宅正二郎教授(再任)
- 超高電圧研究センター長 西村誠介教授(再任)
- 建築技術センター長兼 川村清志教授(再任)
- 機械実工学教育センター長兼 古閑伸裕教授(新任)
- 産学連携起業教育センター長兼 古閑伸裕教授(新任)
- LCセンター長兼 梅崎栄作教授(新任)
- 環境化学ラボ所長兼 小野雄策教授(再任)
- インテリアデザインラボ所長兼 黒津高行教授(再任)
- スチューデントラボ所長兼 上野貴博准教授(再任)
- 工業技術博物館長 松野建一客員教授(再任)
- 生涯学習センター長兼 寺尾裕教授(再任)

【配置換】(4月1日付)

- 川村真司教務課主任
- 教育研究推進室主任
- 【配置換】(4月1日付)
 - 川村真司教務課主任
 - 教育研究推進室主任
- 石田武志准教授(ものづくり環境学科) / 出張先シンガポール(4/15~4/19) / 目的II EEE SSCI2013 スマートグリッドにおける計算知能の応用に関する国際会議における研究発表
- 渡部修一教授(創造システム工学科) / 出張先カナダ(4/23~4/27)

【配置換】(4月1日付)

- 川村真司教務課主任
- 教育研究推進室主任
- 石田武志准教授(ものづくり環境学科) / 出張先シンガポール(4/15~4/19) / 目的II EEE SSCI2013 スマートグリッドにおける計算知能の応用に関する国際会議における研究発表
- 渡部修一教授(創造システム工学科) / 出張先カナダ(4/23~4/27)

環境配慮の観点から再生紙を使用しております。

編集後記

起業家の集積地として著名な「アメリカ・シリコンバレー」には「失敗」な言葉は存在しないといわれている。成功している場合は、「不成功」や「失敗」ではなく「将来に向けて学んだ」と表現するそうだ。マイクロナットのビル・ゲイツやアップルのスティーブ・ジョブズは、こうした土地柄から生まれたのだらう。▼本学の学生の皆さんにも美意識を欲している。まさに各人の人生の中で「失敗・挫折」は当たり前のこと。失敗したことを嘆くよりも、大切なことがある。それは「失敗・挫折」を乗り越えるためにはどうしたら良いかを考えることだ。▼混迷、激動の日々本社会では「成功のための方程式」は解きづらい。むしろ、そのような単純型の人生を送ろうという思考法こそ時代遅れだと知るべきだ。▼ぜひ、この大学生活で「将来に向けて学んだ」ことを経験してもらいたい。【信】